

平成10年度

アイヌ語ラジオ講座 テキスト

10月▶12月

Vol.3

1998

講師のプロフィール



萱野茂

北海道沙流郡平取町二風谷生まれ。
母語としてのアイヌ語(沙流方言)と日本語との二つの言語の中で育つ。
さまざまな仕事をしながら、アイヌの民具、民話の収集・記録に力を注ぎ、1972年「二風谷アイヌ文化資料館」を開館。
平取町議会議員5期、参議院議員1期を務め、現在、「萱野茂 二風谷アイヌ資料館」館長のほか、著述活動など多方面で活躍している。
1975年『ウエペケレ集大成』で菊池寛賞、1989年 吉川英治文化賞、1993年 北海道文化賞などを受賞している。

【平取町二風谷アイヌ語教室の活動について】

平取町二風谷アイヌ語教室では、「子どもコース」と「成人コース」を二風谷子ども図書館で開設しています。

子どもコースは、月2回(土曜日の午後)、講義のほかに踊り・ゲームなども取り入れて学習しています。

成人コースは、月2回(日曜日の夜間)、講義を中心として会話・文法などを学習しています。

なお、平取町二風谷アイヌ語教室に関するお問合せ先は、次のとおりです。

☎01457 2 3368(二風谷子ども図書館)

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	回	日	テ	マ
10月	1	4日	樹木(1)	栗
	2	11日	樹木(2)	桂
	3	18日	樹木(3)	えんじゅ
	4	25日	樹木(4)	えぞ松
11月	5	1日	魚(1)	シャケ
	6	8日	魚(2)	ヤマベ
	7	15日	魚(3)	マス
	8	22日	魚(4)	小魚
	9	29日	魚(5)	魚の語源
12月	10	6日	天気(1)	雨
	11	13日	天気(2)	雪-1
	12	20日	天気(3)	雪-2
	13	27日	まとめ	

アイヌ語には現在のところ標準語というものはなく、それぞれの地域で、それぞれの方言が学ばれているのが実情です。

そのため、このテキストでは、担当講師の方言(沙流方言)をベースにしています。

1. 今回のテキストの中には、ドという文字がたくさん出てきますが、これは、これまでのテキストでトゥと表記されていた音と全く同じです。

例 ドラノ = トウラノ 一緒に

2. アイヌ語では、「私(たち)」あるいは「あなた(たち)」がある動作と結びつく場合、必ずそのことをはっきり示さなければなりません。そのような働きをもつ言葉を人称接辞と呼びます。

このテキストでは、ローマ字表記では= (ダブルハイフン) を用いて人称接辞であることを示しましたが、カタカナ表記の方では省略しました。

例 クコロ ku=kor 私が~を持つ

3. 五十音のイ段の音の後では、後続のア行の音がヤ、ユ、イエ、ヨと変化することがあります。また、同じようにウ段の音の後では、後続のア行の音がワ、ウェ、ウォと変化する場合があります。このように、母音と母音の間にyやwの音が入ることを<わたり>といいます。

このテキストでは、カタカナ表記には<わたり>を入れましたが、ローマ字では表記してありません。

例 ウウォマレ uomare ~を拾う

4. アイヌ語の語り口や調子によって、長音記号を用いている場合があります。しかし、その有無によって意味が変わるということはありません。

例 ナーニ nani = ナニ nani すぐに

5. このテキストでは、原則として単語を単位とした分かち書きをし、スペース(一字あき)で区切ってあります。

しかし、他の場所で単語として記されていても、それらがいくつか集まることによって一語としてまとまり、別の意味を持つような場合には、ローマ字だけを区切りカタカナの方は一続きに表記しました。

例 コタンコロチカッポ kotan kor cikappo シマフクロウ

6. ローマ字表記中に -(シングルハイフン) のある単語は、その前後をあわせて一続きの単語ですが、意味をわかりやすくするために便宜上区切ったものです。これはあくまでも学習を補助するために用いたにすぎず、現在のアイヌ語ローマ字表記に共通する一般的な記号だというわけではありません。

例 ネフキエアラバ nepki-e-arpa 働きに行く



今日のポイント 《栗にまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

ウ克蘭 エアヲキンネ レラ ルイ ア ナ ヤム ポロンノ ドイ ア ナンコン ナ
 ukuran earkinne rera ruy a na yam poronno tuy a nankor na

ホクレ ホブニ ワ ヤム ウウオマレ ワ エク。
 hokure hopuni wa yam uomare wa ek .

昨夜、本当に風が強かったので、栗がたくさん落ちたであろう

早く起きて、栗を拾いに行って来い。



; 単語

ウ克蘭 [昨夜]

ルイ [強い]

ヤム [栗]

ナンコン<ナンコロ [~だろう]

ワ [~して]

エアヲキンネ [本当に、凄く]

ア [~だった]

ポロンノ [たくさん]

ホクレ [早く]

ウウオマレ [~を拾う、集める]

レラ [風]

ナ [~ので、~から]

ドイ [落ちる]

ホブニ [起きる]

エク [来る]

ドはトゥと同じ音です。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《桂の木にまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

シネ アイヌ オッカイポ アネ ヒーネ イラマンテアン クス アコロ クチャチセ タ
sine aynu okkaypo a=ne hine iramante=an kusu a=kor kuca cise ta

アラバアン トカフ アン コロ ランコ フラ アツ メノコ エク ヒネ ワッカタ ネ
arpa=an tokap an kor ranko hura at menoko ek hine wakka-ta ne

ヤ ネフ ネフ カラ ワ イカスイ アイーネ ウムレク ネ アナン オヤチキ
ya nep nep kar wa i=kasuy ayne umurek ne an=an oyaciki

ランコトノ カムイ カッケマツ ネ アアン。
ranko tonono kamuy katkemat ne aan .

私は一人のアイヌの若者であって、狩りをするために私の狩小屋へ行っていた。昼間になると、桂の木の薫りのする娘が来て、水汲みとかいろいろなことをして、私の手伝いをしてくれた結果、私達は夫婦になった。知らなかったが、桂の木の神、神の淑女であった。



単語

シネ [一人の、ひとつの]	オッカイポ [若者(男)]	ア [私は]
ネ [～である]	ヒーネ [～して]	イラマンテ [狩りをする]
アン [私が]	クス [～のために]	
アコロ [私の] (ア=私が、コロ=～を持つ)	クチャチセ [狩小屋]	
タ [～へ、～に]	トカフ アン [昼間になる]	
コロ [～と]	フラ [におい、薫り]	
アツ [立つ]	ワッカタ [水汲み]	
ネ ヤ [～だとか]	カラ [～をする、作る]	
イ [私を]	アイーネ [～してその結果]	
ウムレク [夫婦]	アナン<アン+アン [私はいる]	
オヤチキ [知らなかったが]	カムイ [神]	
カッケマツ [淑女、立派な女性]	アアン [～だったのだ]	

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《えんじゅの木にまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

シランパカムイ カムイ ウタリ メトツソ クルカ イウオロソ クルカ コインネ ヤッ
カ、

siranpa kamuy kamuy utari metotso kurka iworso kurka koinne yakka,

イキツ トム タ パワシヌ オロケ ラメトコロケ サクサ トラ チオトワシ
ikir tum ta pawasnu orke rametok orke sakusa tura ciotuwasi

アエカラカラ ビト、チクペニ カムイ。

樹木の神々、神の仲間、山奥や狩り場に大勢いるけれど、その中でも、雄弁も、度胸も、
薫りと共に、信頼され、授けられた神、えんじゅの木の子。



; 単語

シランパカムイ [樹木の神]	ウタリ [~の仲間]	メトツソ [山奥]
クルカ [~の上]	イウオロソ [狩り場]	
コインネ [~に大勢いる、~にたくさんある]	ヤッカ [~ではあるけれど]	
イキツ<イキリ [列]	トム [~の中]	
パワシヌ [雄弁]	オロケ [~も]	
ラメトコロケ>ラメトク オロケ [度胸も]	サクサ [薫り]	
ドラ [~と共に]	チオドワシ [信頼される]	アエカラカラ [人々が~する]
ピト [神に対する敬称]	チクペニ [えんじゅ]	[チ=我々、ク=~を飲む、ペ=滴、ニ=樹木]

ドはトゥと同じ音です。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《えぞ松にまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

スルク アナクネ アイヌ ウタラ イラマンテ クス エキムネ パ ヒ タ ウブンパッチェ
 sunku anakne aynu utar iramante kusu ekimne pa hi ta upun patce

ネ ヤ ウパシエシッドライヌ ネ ヤ ネヒオロタ、スルク スットモ タ ヤントエトン パ
 ne ya upas-e-sitturaynu ne ya ne hi oro ta, sunku suttomo ta yanto-etun pa

クスケライ シクヌ パ ヒ ポロンノ アン ペ ネ。
 kusu keray siknu pa hi poronno an pe ne.

えぞ松は、アイヌ達が狩りのために山へ入った時に、猛吹雪とか、(先が見えない程の)雪
 降りて道に迷うなど、その様な時に、えぞ松の根元を宿として、そのお陰で助かることがた
 くさんあった。



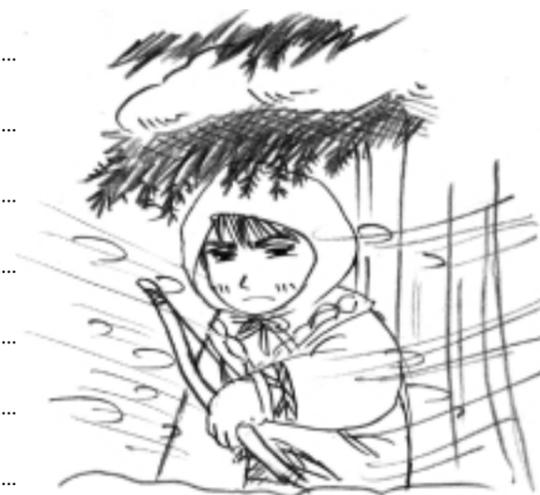
; 単語

スルク [えぞ松]	アナクネ [～は]	ウタラ [～たち、仲間]
エキムネ [山へ行く]	パ [何人もで行う、何回も行う、複数の意味]	
ヒ [時]	ウブンパッチェ [吹雪] (ウブン=吹雪、パッチェ=舞う)	
ウパシエシッドライヌ [雪で道に迷う] (ウパシ=雪、エ=～で、シッドライヌ=迷う)		
ネヒオロタ [そこで、そこに]	スットモ [根元]	
ヤントエトン [宿を借りる] (ヤント=客、エトン=～を借りる)	クスケライ [～のお陰で]	
シクヌ [生きる]	ヒ [こと]	アン [ある]
ペ [もの]		

ドはトゥと同じ音です。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《ヤマベにまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

テエータ カネ ナー クベウレ ヒ タ ニカフ エトコホ ウン クネフキエアラバ
teeta kane na ku=pewre hi ta nikap etokoho un ku=nepki-e-arpa

ヌカンライ セコロ アイェ ナイ オツ タ ネフ パクノ キクレッポ アン イモク ネ
nukanray sekor a=ye nay or ta nep pakno kikreppo an imok ne

アナクネ ドニン アエイワンケ クペライ アムキリ。
anakne tunin a=eywanke ku=peray amkir .

ずーっと昔、まだ若い時に、新冠川上流へ働きに行き、ヌカンライと言われる沢にたくさん
のヤマベがいて、餌には、ミミズを使って、私は釣りをしたものであった。



; 単語

テエータ カネ [ずーっとずーっと前、ずっと昔]	ナー [まだ]
ク [私が]	ペウレ [若い]
エトコホ [~の上流]	ウン [~に]
ネフキエアラバ [働きに行く] (ネフキ=働く、エ= ~するために、アラバ=行く)	
ヌカンライ [沢の名前]	アイェ [人が言う、言われる] (ア=人が、イエ= ~を言う)
ナイ [沢]	オツ<オロ [~のところ]
ネフ パクノ [いくらでも、たくさん]	キクレッポ [ヤマベ]
イモク [餌]	ドニン [ミミズ]
エイワンケ [~を使う]	ペライ [魚釣り、釣りをする]
アムキリ [~を記憶する、覚えている]	ア [私たちは]

ドはトゥと同じ音です。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《マスにまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

サキペ アナクネ パイカヲ ワノ ペトツ タ エク ワ オカ チマキナ エブイ クンネ コロ
saki pe anakne paykar wano pet or ta ek wa oka cimakina epuy kunne kor

エイリパク ナイ オルン アフフ パ ヲ ネ シコロ カネ コナハ カンナ カンナ エンヌレ
eirpak nay or un ahup pa p ne sekor kane k=onaha kanna kanna en=nure

ヲ ネ ア ワ ナ。
p ne a wa na.

マスは、春から川へ来ていて、ウドの花が黒くなると同時に、沢へ入るものと、私の父が何回も何回も、私に聞かせてくれたものであったよ。



; 単語

サキペ [マス]

パイカヲ [春だ]

ワノ [~から]

ペツ [川]

オカ [いる(複数形)]

チマキナ [ウド]

エブイ [花]

クンネ [黒くなる]

エイリパク [一緒に]

オルン < オロ ウン [~のところに]

アフフ [入る(複数形)]

パ [何回も ~する、複数の意味]

シコロ カネ [~と]

コナハ < ク + オナハ [私の父]

カンナ カンナ [何回も何回も]

エン [私に]

ヌレ [...に ~を聞かせる]

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《小魚にまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

テエータ ナ クボン ラボキ シリサク コロ チェッポ スナンカラ セコロ ネ ワ
teeta na ku=pon rapoki sirsak kor ceppo sunankar sekor ne wa

パハ ポロ ウタラ ドラノ タドシペ ネ ヤ キムイ ネ ヤ アニ スネコロアシ ワ
paha poro utar turano tatuspe ne ya kimuy ne ya ani sunekor=as wa

チェッポコイキ クス ナヨツ タ ラパシ ペラアイ アニ ポロンノ チェッポコイキアシ
ceppo-koyki kusu nay or ta rap=as peraay ani poronno ceppo-koyki=as

ペ ネ ア コロカ タネ アナクネ シネ チェッポ ポカ イサム ペ ネ ワー。
pe ne a korka tane anakne sine ceppo poka isam pe ne wa .

ずーっと昔、まだ私が小さかった頃、夏になると、小魚を灯で獲る、ということで、年上の
人たちと一緒に、樺の皮とか、カヤの束とかに、火をつけて灯にし、小魚を獲るために沢へ
下りて、へら矢でたくさん魚を獲ったものであったが、今は一匹の小魚もないのだよ。



; 単語

テエータ [ずーっと昔]	ナ (=ナー)	ポン [小さい]
ラボキ [~の時、 ~の間]	シリサク [夏になる] (シリ=あたり、サク=夏)	
チェッポ [小魚]	スナンカラ [灯で ~を獲る]	ワ [~て]
パハ [年、年齢]	ポロ [大きい、多い]	セコロ [~と]
ドラノ [一緒に]	タドシペ [樺皮のたいまつ]	キムイ [カヤの束]
アニ [~で]	スネコロ [灯を持つ]	
アシ [私達が (相手を含まない)]	ナヨツ<ナイ オロ [沢のところ]	
チェッポコイキ [小魚を獲る] (チェッポ=小魚、コイキ= ~をいじめる、獲る)		
ラパシ<ラブ+アシ [私達が下りる]	ペラアイ [へら矢]	
タネ [今]	ポカ [~ばかりも]	イサム [いない、無い、無くなる]

ドはトゥと同じ音です。

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《魚の語源にまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

チェブ セコロ アイェ プ アナクネ ソンノ ポロンノ オカ ワ キム タ アン アイヌ
cep sekor a=ye p anakne sonno poronno oka wa kim ta an aynu

クネ プ ネ クス チェブ レ アリ ケアイカブ ヒ コイラ クニ プ ソモ ネ コロカ
ku=ne p ne kusu cep re ari k=eaykap hi k=oyra kuni p somo ne korka

チェブ アナクネ レヘ コラチ アイヌ ウタラ ウルオカタ ウルオカタ エパエイウレシバ
cep anakne rehe koraci aynu utar uruokata uruokata e-pa-e-i-urespa

プ ネ ルウェ ウン。
p ne ruwe un .

魚というものは、それはそれはたくさんいる。(私は)山育ちの人間なので、魚の名を言うことが出来ないことを忘れてはいないけれども、魚というものは名前の通りに、人間たちが次から次と食べて育ったものなのだよ。



; 単語

チェブ [魚] (チ=我々が、エ= ~を食べる、プ=もの)	ソンノ [本当に]
キム [山]	レ [名前]
ケアイカブ <ク+エアイカブ [私は~できない]	アリ [~を置く(複数形)、言う]
コイラ <ク+オイラ [私は~を忘れる]	クニ [~のはずの、~であるべき]
コラチ [~の通りに]	ウルオカタ [次から次へ]
エパエイウレシバ [それを食べるにより互いを育てる] (エ= ~を食べる、パ=何人もで~する、複数の意味、エ= ~によって、ウレシバ=育て合う)	
ルウェ [~の様子]	ウン [~だよ]

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《雨にまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

チュク イヨッタ イヨシノ アシ アフト シンルプシカフ セコロ アレコ ヲ ネ シコロ
cuk iyotta iosno as apto sir rupuska p sekor a=reko p ne sekor

カネ クシュートホ エネパカシヌ ヲ ネ ア ワ。
kane ku=siwtho en=epakasnu p ne a wa.

ハブラブチュフ オツ タ アシ アフト アレコ ヒ キムンカムイボフライェフ セコロ
haprapcup or ta as apto a=reko hi kimun kamuy po huraye p sekor

アイェ ヲ ネ ワ。
a=ye p ne wa.

秋の一番最後に降る雨のことを、大地を凍らせる雨という名が付いているものだと、私の舅(しゅうと)が、私に教えてくれたものであった。

二月に降る雨の名前は、山の神(クマ)が子供を洗うものというものだ。



; 単語

チュク [秋]

イヨッタ [一番]

イヨシノ [後から]

アシ [降る]

アフト [雨]

シンルプシカフ [大地を凍らせる雨] (シン<シリ=大地、ルプシカ=凍らせる、フ=もの)

アレコ [人が~と名を付ける、名前を付けられる] (ア=人が、レコ=~に名前を付ける)

シュートホ [~の舅]

エネパカシヌ<エン+エパカシヌ [私に教えてくれる] (エン=私に、エパカシヌ=...に~を教える)

ハブラブチュフ [二月]

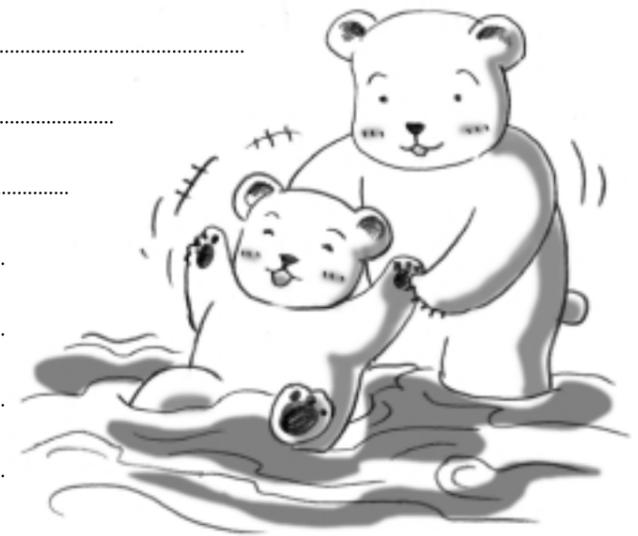
ヒ [~したこと]

ポ [子供]

フライェ [~を洗う]

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《雪にまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

ウパシ アナクネ リクンカント ワ アイヌモシルン ウホユッパレ ワ シノッエエク ペ
 upas anakne rikun kanto wa aynu mosir un uhoyuppare wa sinot-e-ek pe

ネ ルウェ ウン。
 ne ruwe un .

マタ ホントム タ アプト アシ オカケ タ スイ メアン コロ ピリカ ウカ アン。
 mata hontom ta apto as okake ta suy mean kor pirka uka an .

雪というものは、天の国から人間の国土へ競走して、遊びに来ているものなのだよ。

冬の半ばに雨が降った後、再び寒くなると、丁度よい堅雪になる。



; 単語

ウパシ [雪] (ウ=互いに、パシ=走る)

リクンカント [天の国] (リクン=高いところにある、カント=天) ワ [~から、より]

アイヌモシルン < アイヌモシリ ウン [人間の国土へ] (アイヌ=人間、モ=静か、シリ=島、大地、 ウン= ~へ)

ウホユッパレ [走り合う] (ウ=互いに、ホユッパ=走る、レ=させる)

シノッエエク [遊びに来る] (シノッ=遊ぶ、エ= ~するために、エク=来る)

マタ [冬] ホントム [~の途中] オカケ [後]

スイ [再び] メアン [寒くなる] (メ=寒波、アン=ある)

ピリカ [良い] ウカ [堅雪] アン [~になる]

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。





今日のポイント 《雪にまつわる言葉や文化を学ぶ》

今日の例文

パイカラ アン コロ ペラッネウパシ アシ ランケ。
paykar an kor peratne upas as ranke .

コムコムウパシ アシ ヤッカ ナーニ ル ワ イサム ペ ネ ワー。
komkom upas as yakka nani ru wa isam pe ne wa .

春になると、淡雪が度々降るものだ。

綿雪は、降ってもすぐに溶けて無くなるものだ。



; 単語

パイカラ [春]

ランケ [たびたび、何回も]

ヤッカ [~しても]

ペラッネウパシ [淡雪] (ペラッネ = 一重、ウパシ = 雪)

コムコムウパシ [綿雪] (コムコム = 小鳥の胸の柔らかい毛)

ナーニ [すぐに]

ル [溶ける]

MEMO

本日のレッスンで気になるところをまとめておきましょう。

